平成30(2018)年「正覚寺報」12月号

◆ご　案　内

①仏教壮年会お聴聞の会12月2日(日)20時～
　お聴聞は浄土真宗の行と言って差し支えありません。聞薫習でお育てに与って参りましょう。
②仏教婦人会例会12月16日(日)19時半～
③除夜会　12月31日(大晦)23時半～

◆滋賀組の特徴ある寺院の姿／活動

　滋賀組には、御門徒様を育てていらっしゃる特徴ある寺院の姿／活動があります。
◆南組のE寺様では、今年とうとう“門徒推進員”が六名を数えるまでに充実した陣容を誇っていらっしゃいます。寺院を引っ張っていらっしゃるのは“門徒推進員”の皆様だといっても決して過言ではない姿をお見受けします。
「E寺様が一番滋賀組の事業にも協力的でやりやすい」とは、M組長の実感であります。
◆北組のS寺様では、二年毎に寺院単独の事業として“念仏奉仕”を継続しておいでです。
寺院に根付いた事業ほど御門徒様を育てるものはありません。昨年でしたか、“本堂屋根の修復”という一大事業を完遂されました。
お一人お一人の御門徒さんにとっては、決して小さくないご負担でありましたが、どなた様の口からも“よいご縁にあわせて戴いた”との感謝の御言葉が聞かされたことでありました。
◆一方、当院では、毎月“お聴聞の会”を営ませて戴いてきました。「ご院さん、私ら本格的に御法話を聞きたい」と当時仏教壮年会の会員様であった前総代様からのご提案に端を発した事業であります。今日では仏壮／仏婦共に、毎月確かな活動として営んで戴いております。
”お聴聞の会“は、近頃、何でも質問して布教使さんにお応え戴く仕方に脱皮しつつあります。
◆当院の“降誕会”は、会長さんはじめ会員様方のご努力によって今年初めて親子で40名に達する皆様方にお参りを戴きました。
近隣にお住まいの方々に正覚寺にご縁を結んで戴く極めて大切な機能ですので、その情熱とノウハウをぜひ維持して戴きたく存じます。

◆正覚寺の今後に向けて

◆“初講”は御門徒さんが全員で顔を合わせて戴けるかけがえのない場です。その場が相互に何でも和やかに話し合えるコミュニケーションの場になるようご配慮を戴ければ幸いです。
◆役員様方についての御相談です。四人の総代様方が四年毎に、仏教壮年会長様が毎年お代わりになりますと役員が段々若返ってしまい、滋賀組等の外向けに当院の影響力が削がれてしまいます。役員様のお顔はなるべく固定して戴く方がよいのです。この辺り総代様方にお智慧を絞って戴きたいところです。
◆当院の報恩講のお客僧には年々立派な先生方におでまし戴くようになり、お参りの皆様方にお慶び戴いております。御門徒さんの中で報恩講にまだご縁を結んで戴いていないお方にはぜひ歩みを運んで戴きたくお願い致します。
◆満九年を迎えた“ウェブサイト正覚寺”はY様にずっと御世話になってきました。外部の専門家に評価して貰ったところ、“公聴会の課題を考える”等りびんぐらいぶずのコンテンツ名で直接検索してヒットしてくるところは長所ですが、これは知っている人が読んで戴く為のHPですね。SNSの今日はでは全く初めてのお方が自らの人生ニーズに直接手っ取り早く答えて相談したくなるように、そのニーズをお寺に繋ぐ機能が必要ですねと聞かされました。年始めにはいよいよその機能を発足させます。合掌。